

丹波篠山市公民館だより 第49号 四季の森通信

発行元
丹波篠山市立中央公民館
丹波篠山市網掛429
TEL 079-594-1180
館長 大路和浩
令和4年10月21日

芸術の秋

特集 = 「丹波地域学ぶ高齢者のつどい」丹波篠山市で開催 = (1面・2面)

令和4年9月22日から23日まで四季の森生涯学習センターで「令和4年度丹波地域学ぶ高齢者のつどい」が開催され、丹波地域の高齢者大学などで学ぶみなさんの芸能発表(23日)と創作作品の展示が行われました。

芸能発表では、8団体が発表。丹波篠山市高齢者大学からは、あおやま学園民謡講座、たんなん学園スポーツウエルネス吹矢講座、かやのみ学園民謡講座のみなさんが練習の成果を披露されました。また、作品展では、書、日本画、洋画、工芸、写真、彫刻、手芸、短歌・俳句・川柳の8部門で計115点の出品があり、丹波篠山市高齢者大学からは31点の力作が並びました。

芸能発表

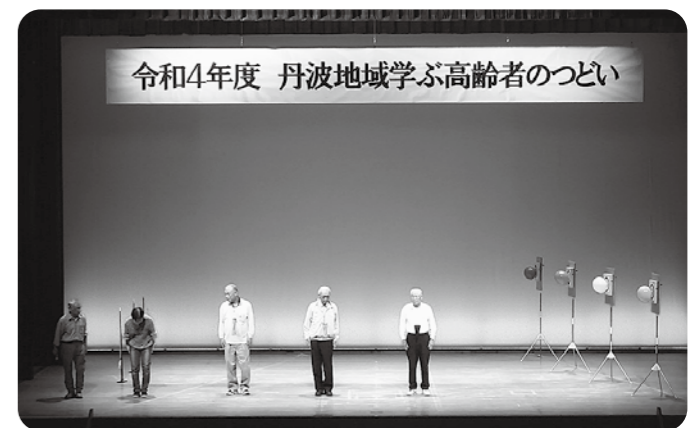
令和4年度 丹波地域学ぶ高齢者のつどい



民謡「デカンショ恋唄」「左エ門音頭」「明石海峡大橋」 あおやま学園 民謡講座



吹矢「スポーツウエルネス吹矢」 たんなん学園 スポーツウエルネス吹矢講座



令和4年度 丹波地域学ぶ高齢者のつどい

公民館のニューフェイス！ 5月に加わった公民館の新しい仲間をご紹介

5月から中央公民館でお世話になっております。持ちネタは前職の「海外出張で体験した本場に怖い話」です。機会がございましたらぜひ聴いてください。まだまだ未熟でございますが、ご指導いただきながら皆さまのお役に立ちたいと思っています。どうぞよろしくお願いたします。

中央公民館 福岡秀子



募集集中

川柳

第41回

お題「後始末」 大西重男選

応募数 10人20句

評価ポイント*以下(評ボ)

最優秀句

やったはず不安になって後戻り

草ノ上 高橋祥男

(評ボ)火の始末。それともほかに……。想像が広がるいい句です。

優秀句

負けましたくやしなみだの後始末

東吹 河南京子

(評ボ)少年野球などで負けた方が、半泣きで後片付けをしている姿が目につかびます。

断捨離に又使うかが邪魔をする

県守 古谷春美

(評ボ)誰もが思う事です。考えず、手だけを動かして機械になったつもりでやりましょう。

物造り大好き始末できぬ人

細工所 澤良子

(評ボ)昭和人間の象徴のような人ですね。でもこんな人に悪い人はいませんよ。ご安心ください。

《総評》 後始末って邪魔臭くて疲れていい思い出がない言葉ですね。それが皆さんの句に反映され、静かな句が多かったです。パツと明るい句を作ってくださいね。

次号のお題「峠」12月27日×切

中央公民館・城東公民館・多紀支所・西紀支所・今田支所まで持参・郵送・FAXでご応募ください。1人2句までで句とお名前にふりがなを書いてください。

一生勉強一生青春 Vol.38

原田 久美子 さん (西野々)

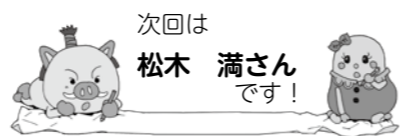
「地域を愛し、地元をこだわる！」

原田さんは福住の重要伝統的建造物群保存地区内でカフェを運営されています。お店は、旧街道に面し、陽が差し込み明るく、おしゃれな造りです。福住地区を元気ある元気な町にしたいと、地域を愛し、地元をこだわるオーナーさんです。

生涯学習活動にまっしぐら！懸命に励まれている方を「数珠つなぎ方式」でご紹介します。今回登場した方が「エールを送りたい」と思う人を、次回ご紹介します。…次は、あなたかも！？

【記者より】

今回の原田さんは昨年大病を患い、手術されたとの事ですがそんなことはみじんも感じさせません。ジビエ料理に挑戦や、カフェのスペースを活用しての地元アーティストによる演奏会など様々なイベントの企画なども考えられています。(吉)



次回は 松木 満さん です！

次のバトンはこの人に託します！



伊丹市生まれ、神戸市北区で育ち結婚を機に丹波篠山に来ました。夫が篠山イノベータースクールを受講しており、触発されて私も翌年に受講しました。ここでセミナーを通じて様々な交流と人脈ができ、その後のお店作りに役立ちました。旧福住小学校の教室でカフェをした後、今年5月に今のお店を開業しました。内装にもこだわり、手塗りの壁、手作りのテーブル、照明は白熱球と懐かしい、温かみのあるつくりにしました。店内奥のキッズスペースも好評です。店名は自分と家族の名前からとってつけました。

自宅で作る黒豆きな粉揚げパンはご近所さん、学生さんに人気があります。自家栽培のコシヒカリや福住産の食材と、地元をこだわっています。ご近所さんの憩いの場としてまた、福住と都会からのお客さんとの交流の場になればと思っています。

編集後記

朝夕が涼しくなり、今年もいよいよ黒枝豆の収穫時期になり生産者のみなさんは、大変忙しい時期を迎えようとしています。お体ご自愛して収穫作業を頑張ってください。そんな収穫時期を迎えた中、新型コロナウイルスの影響で「丹波なみきみちまつり(収穫祭)」、「丹波たんなん味覚まつり」、「城東味まつり」などが中止となってしまいました。来年度は各イベントが中止されることなく開催されることを心待ちにしています。みなさんそれまで頑張りましょう。(寿)





民謡「篠山小唄」「八上城」「デカンショ節」 かやのみ学園 民謡講座



令和4年度 丹波地域学ぶ高齢者のついで

あおやま学園(1面)かやのみ学園の民謡にあわせて会場内には手拍子が鳴り響きました。また、たんなん学園の吹矢(1面)では、発表者が集中力を高め、会場内に緊迫した空気が張り詰めました。その後、全員が的に当て、一瞬で風船が割れ、歓声が上がりました。

丹波篠山市高齢者大学 出展者入選作品のご紹介

【洋画部門】

作品名「森の走り根」



小村 美晴さん(たんなん学園)

【工芸部門】

作品名「昇龍橋から福知山城を見る」



中山 憲三さん(たき学園)

【工芸部門】

作品名「白山連峰春のきざし」



古林 由美子さん(たき学園)

【工芸部門】

作品名「丹波杜氏酒造記念館」



岡崎 幸代さん(たき学園)

【手芸部門】

作品名「カテドラルのテーブルセンターと茶器」



松本 ソエ子さん(さぎそう学園)



Info =公民館からのお知らせ=

公民館の
お得意様

このコーナーでは、公民館に縁のある団体を紹介します。掲載希望団体は公民館まで!!

ささやまカップ焼きそば協会

代表者：松本 剛(556-3171)

活動日時：不定期(年3回程度)

活動場所：城東公民館実習室ほか

活動内容：カップ焼きそばの研究・調査

団体紹介：多種多様化する「カップ焼きそば」の



第1回食べ比べ会の様子

食べ比べなどを行い「食文化」の中に「カップ焼きそば」のカテゴリーを根付かせ、大手食品メーカーに丹波篠山の特産品を使った「ご当地カップ焼きそば」を作ってもらう事を目標にしています。

まずは一歩!ご興味があればぜひ、公民館へお問い合わせください。

~私の「丹波篠山世間遺産」~ Vol.2



(一社)丹波篠山市観光協会
今井めぐみさん

田植え前後の田んぼの水鏡に映る丹波篠山の景色は、南米ボリビアの「ウユニ塩湖」を超えていると私は思っています。特に朝夕の薄暮の風景は、未来に残したい風景です。



ウユニ塩湖を超える美しさという丹波篠山の水田風景

募集中

第21回

篠山のむかしばなし実物写真館



はは鹿の供養に彫られたと伝えられる子安地蔵

「鹿ものがたり」

白髪岳と松尾山にはさまれた所に、住山という谷ふかい山里があります。この里山の山すそに一人暮らしの与作という若者がいました。農作業が終わり、久しぶりに山へ狩りにでかけました。2頭の鹿が仲良く木の芽を食べていました。「ずどーん」と鉄砲が火をふき谷間に響き渡りました。1頭が倒れました。めす鹿のようで、だんだん動かなくなりました。めす鹿は最後の力をふりしぼり、悲しげに一声ほそくなりました。その時です、めす鹿から1頭の小鹿が生まれました。はは鹿は自分の生んだ小鹿が立ち上がるまでしばらくじっと見守っていましたが、やがて息をひきとってしまいました。ちち鹿は動かなくなったはは鹿をしばらく見つめていましたが、一声ほそく悲しそうになくのでした。与作は子鹿をかかえ、家にかえり大事に育てました。お地蔵さんを刻みはじめ、できあがったお地蔵さんをはは鹿のお墓の前にたてました。このお地蔵さんは子安地蔵と呼ばれ、今は村の氏神に移され大切にまつりされています。『丹波のむかしばなし・第2集』(公財)兵庫丹波の森協会発行

子安地蔵⇒子授け、安産、子育てのお地蔵様。子授けの祈願の際には、お堂の中の丸い小石を貰い、子どもが授かると河原からきれいな丸い小石を拾ってきて、先にもらってきた小石を添えてお返しする風習があります。

募集中

第21回

ささやまあるある博覧会

「とこ、せいの一!!」

「ほな、前乗れよ!いくぞー!とこ、せいの一!!」若い衆の威勢のいい掛け声とともに前輪が持ち上がり、後輪を軸にして数トンもあろうかと思う山車がクルリと方向転換をする。

また「よーい、さんじゃー」の声とともにみこしが馬場や境内を練り歩き「とこ、せいの一」の掛け声と同時に、みこしを頭上へ高々と持ち上げる。古くから「丹波の祇園さん」と呼ばれ、毎年8月の第1土日に開催される城東校区の波々伯部地区にある波々伯部神社の祭礼での風景である。

丹波篠山で広く使われる言葉だと思っていたが、波々伯部神社の祭礼と同じく「丹波篠山の三大祭り」に数えられる「春日神社の祭礼」や「佐々妻神社例祭」、また、同じように「山車」が巡行される福住吉神社の「水無月祭」や熊野新宮神社の「八朔祭」の関係者に確認したところ「うちはそんなこと言わんぞ」とのお返事をいただいた。

要するに、この「とこ、せいの一」という言葉は、祭礼の時だけでなく、集団で重い物を持ち上げたり、移動させる際に城東校区波々伯部地区では日常的に使われる言葉だったのだ。

コロナ禍の中、3年にわたり中止となった「丹波の祇園さん」ですが、来年こそは、「とこ、せいの一」の威勢のいい掛け声が地区内や境内に響きわたることを期待したいものである。